

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3197761号
(U3197761)

(45) 発行日 平成27年6月4日(2015.6.4)

(24) 登録日 平成27年5月13日(2015.5.13)

(51) Int.Cl. F 1
A 4 3 B 13/14 (2006.01) A 4 3 B 13/14 Z

評価書の請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 実願2015-1198 (U2015-1198)
(22) 出願日 平成27年3月16日(2015.3.16)(73) 実用新案権者 512304412
株式会社SHINYOH
東京都中央区日本橋本町4-8-17KN
日本橋ビル402
(74) 代理人 100063185
弁理士 若林 擴
(72) 考案者 渡辺 渡
東京都中央区日本橋本町4-8-17KN
日本橋ビル402 株式会社SHINYOH
H内

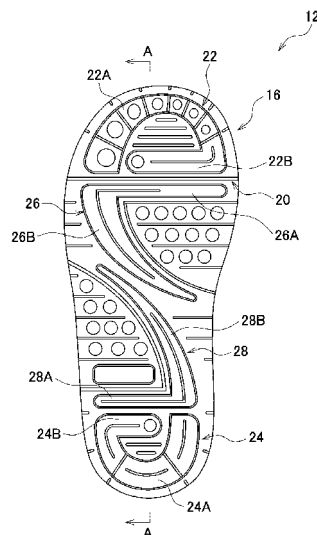
(54) 【考案の名称】 子供用シューズ

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 歩行時等における足の前足部に作用する足圧を適正な方向に導いて足に作用する足圧を効率的に作用させることができる子供用シューズを提供する。

【解決手段】 子供用シューズの靴底部12を構成するミッドソール16はラバー素材で成形されている。ミッドソール16には横直線状変曲点溝20が形成されている。この横直線状変曲点溝20よりも靴底部12の前方のミッドソール16にはラバー素材で形成された前足部アウトソール22が設けられている。靴底部12の踵部のミッドソール16にはラバー素材で形成された踵部アウトソール24が設けられている。直線状変曲点溝20と踵部アウトソール24との間にはラバー素材で形成された第1シャンクアウトソール26と第2シャンクアウトソール28が設けられている。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

子供用シューズの靴底部を構成するミッドソールに形成されると共に靴底部の幅方向に向かって形成された直線状変曲点溝と、この直線状変曲点溝よりも靴底部の前方にラバー素材で設けられると共に略 e 字状に形成された前足部アウトソールと、前記ミッドソールの踵部に設けられると共にラバー素材で形成された踵部アウトソールと、前記直線状変曲点溝と前記踵部アウトソールとの間に設けられると共にラバー素材で形成された第 1 シャンクアウトソール及び第 2 シャンクアウトソールと、を設けたことを特徴とする子供用シューズ。

【請求項 2】

前記前足部アウトソールは前足部アウトソール円弧状部と前足部アウトソール横直線状部から形成され、前記踵部アウトソールは踵部アウトソール円弧状部と踵部アウトソール横直線状部から形成され、前記第 1 シャンクアウトソールは前記直線状変曲点溝に沿う第 1 シャンクアウトソール横直線状部と第 1 シャンクアウトソール曲線状部から形成され、前記第 2 シャンクアウトソールは第 2 シャンクアウトソール横直線状部と第 2 シャンクアウトソール曲線状部から形成されたことを特徴とする請求項 1 記載の子供用シューズ。

【請求項 3】

子供用シューズの靴底部を構成するミッドソールに形成されると共に靴底部の幅方向に向かって形成された円弧状変曲点溝と、この円弧状変曲点溝よりも靴底部の前方にラバー素材で設けられると共に e 字状に形成された前足部アウトソールと、前記ミッドソールの踵部に設けられると共にラバー素材で形成された踵部アウトソールと、前記円弧状変曲点溝と前記踵部アウトソールとの間に設けられると共にラバー素材で形成されたシャンクアウトソールと、を設けたことを特徴とする子供用シューズ。

【請求項 4】

前記前足部アウトソールは前足部アウトソールリング状部と前足部アウトソール横直線状部から形成され、前記踵部アウトソールは踵部アウトソールリング状部と踵部アウトソール縦直線状部から形成され、前記シャンクアウトソールは前記円弧状変曲点溝に沿うシャンクアウトソール円弧状部とシャンクアウトソール曲線状部から形成されたことを特徴とする請求項 3 記載の子供用シューズ。

【請求項 5】

前記ミッドソールをラバー素材で形成したことを特徴とする請求項 1、請求項 2、請求項 3、請求項 4 のいずれか 1 項に記載した子供用シューズ。

【請求項 6】

前記ミッドソールを EVA で形成したことを特徴とする請求項 1、請求項 2、請求項 3、請求項 4 のいずれか 1 項に記載した子供用シューズ。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、子供用シューズに関し、詳しくは歩行時等に足の前足部に作用する足圧を適正な方向に導くことができる子供用シューズに関する。

【背景技術】

【0002】

子供の足は発育により徐々に大きくなると共に子供の発育段階において例えば 3 歳～4 歳位、5 歳～6 歳位、7 歳～11 歳位の年齢層においては、それぞれ歩行時等における足の動きが異なる。

ところで、足の骨格が完成していない乳幼児期から発育期における子供の足の正しい発育形成を図る子供靴が提案されている（特許文献 1）。

しかし、このタイプの子供靴は子供の正しい足の発育促進を図るための子供靴であるため、歩行時等における足の前足部に作用する足圧を適正な方向に導くアウトソールは設けられていない。

10

20

30

40

50

このため、従来の子供靴では歩行時等における足の前足部に作用する足圧を適正な方向に導くことが困難である。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】特開2001-252102号

【考案の概要】

【考案が解決しようとする課題】

【0004】

本考案は、上記事実に鑑みなされたものであり、歩行時等における足の前足部に作用する足圧を適正な方向に導いて足に作用する足圧を効率的に作用させることができる子供用シューズを提供するものである。

【課題を解決するための手段】

【0005】

請求項1の考案は、子供用シューズの靴底部を構成するミッドソールに形成されると共に靴底部の幅方向に向かって形成された直線状変曲点溝と、この直線状変曲点溝よりも靴底部の前方にラバー素材で設けられると共に略e字状に形成された前足部アウトソールと、前記ミッドソールの踵部に設けられると共にラバー素材で形成された踵部アウトソールと、前記直線状変曲点溝と前記踵部アウトソールとの間に設けられると共にラバー素材で形成された第1シャンクアウトソール及び第2シャンクアウトソールと、を設けたことを特徴としている。

請求項2の考案は、前記前足部アウトソールは前足部アウトソール円弧状部と前足部アウトソール横直線状部から形成され、前記踵部アウトソールは踵部アウトソール円弧状部と踵部アウトソール横直線状部から形成され、前記第1シャンクアウトソールは前記直線状変曲点溝に沿う第1シャンクアウトソール横直線状部と第1シャンクアウトソール曲線状部から形成され、前記第2シャンクアウトソールは第2シャンクアウトソール横直線状部と第2シャンクアウトソール曲線状部から形成されたことを特徴としている。

請求項3の考案は、子供用シューズの靴底部を構成するミッドソールに形成されると共に靴底部の幅方向に向かって形成された円弧状変曲点溝と、この円弧状変曲点溝よりも靴底部の前方にラバー素材で設けられると共にe字状に形成された前足部アウトソールと、前記ミッドソールの踵部に設けられると共にラバー素材で形成された踵部アウトソールと、前記円弧状変曲点溝と前記踵部アウトソールとの間に設けられると共にラバー素材で形成されたシャンクアウトソールと、を設けたことを特徴としている。

請求項4の考案は、前記前足部アウトソールは前足部アウトソールリング状部と前足部アウトソール横直線状部から形成され、前記踵部アウトソールは踵部アウトソールリング状部と踵部アウトソール縦直線状部から形成され、前記シャンクアウトソールは前記円弧状変曲点溝に沿うシャンクアウトソール円弧状部とシャンクアウトソール曲線状部から形成されたことを特徴とする請求項3記載の子供用シューズと、を設けたことを特徴としている。

請求項5の考案は、前記ミッドソールをラバー素材で形成したことを特徴としている。

請求項6の考案は、前記ミッドソールをEVAで形成したことを特徴としている。

【考案の効果】

【0006】

本考案は、歩行等に前足部アウトソールに導かれた足の足圧は前足部アウトソールを介して適正方向に導かれるので子供用シューズを介して足の足圧を効率よく接地面に伝えることができるという優れた効果を有する。

本考案は、歩行時等に靴底部の中間部に衝撃等が生じててもシャンクアウトソールが靴底部の中間部に過度の撓みや撓れが生ずるのを防ぐので、安定して歩行等することができるという優れた効果を有する。

【図面の簡単な説明】

【0007】

【図1】第1実施例の子供用シューズの靴底部の底面図である。

【図2】第1実施例の子供用シューズの靴底部の斜視図である。

【図3】図1 A-A端面図である。

【図4】第1実施例の子供用シューズの側面図である。

【図5】第2実施例の子供用シューズの靴底部の底面図である。

【図6】第2実施例の子供用シューズの靴底部の斜視図である。

【図7】図5 A-A端面図である。

【考案を実施するための形態】

【0008】

考案を実施するために最良の形態の例として以下のような実施例を示す。

【実施例1】

【0009】

図1～図4には本考案に係る子供用シューズの第1実施例が示されている。なお、第1実施例の子供用シューズは主に学校に通学する場合等に履くのに適した子供用シューズである。

図4に示されるように、第1実施例の子供用シューズ10は靴底部12とアッパー部14を備えている。

【0010】

図1及び図2に示されるように、前記靴底部12を構成するミッドソール16はラバー素材で一体成形されている。

前記ミッドソール16には靴底部12の幅方向（図1左右方向）に向かって変曲点を有する変曲点溝としての横直線状変曲点溝20がミッドソール16を刻設して形成されている。このため前記ミッドソール16は横直線状変曲点溝20で肉厚が他の部分より薄くなるので他の部分よりも曲がり易くなっている。

この横直線状変曲点溝20よりも靴底部12の前方（図1上方）のミッドソール16にはラバー素材で形成された前足部アウトソール22が設けられている。

この前足部アウトソール22は歩行時に足の前足部に作用する足圧を適正な方向に導く役割を果たすようになっている。

【0011】

前記前足部アウトソール22は略e字状に形成されると共に前足部アウトソール円弧状部22Aと前足部アウトソール横直線状部22Bを有している。

【0012】

前記靴底部12の踵部のミッドソール16にはラバー素材で形成された踵部アウトソール24が設けられている。この踵部アウトソール24は略e字状に形成されると共に踵部アウトソール円弧状部24Aと踵部アウトソール横直線状部24Bを有している。

【0013】

前記直線状変曲点溝20と前記踵部アウトソール24との間で靴底部12の前後方向（図1上下方向）の中間部にはラバー素材で形成された第1シャンクアウトソール26と第2シャンクアウトソール28が対向して設けられている。

この第1シャンクアウトソール26と第2シャンクアウトソール28は歩行時等に靴底部12の中間部が撓んだり撚れたりするのを防止する役目を果たすようになっている。

【0014】

前記第1シャンクアウトソール26は逆フ字状に形成されて第1シャンクアウトソール横直線状部26Aと第1シャンクアウトソール曲線状部26Bを有している。

この第1シャンクアウトソール横直線状部26Aは前記横直線状変曲点溝20に沿って形成されている。このため第1シャンクアウトソール横直線状部26Aは、前記横直線状変曲点溝20をサポートする役目を有している。

また、第2シャンクアウトソール28も逆フ字状に形成され第2シャンクアウトソール横直線状部28Aと第2シャンクアウトソール曲線状部28Bを有している。

10

20

30

40

50

【0015】

図3に示されるように、前記前足部アウトソール22、前記踵部アウトソール24、第1シャンクアウトソール26、第2シャンクアウトソール28の接地面は前記ミッドソール16の接地面よりも突出するように形成されている。

【0016】

次に、第1実施例の子供用シューズ10を履いて歩行する場合を例にして子供用シューズ10の作用を説明する。

子供用シューズを履いて歩行する場合、子供用シューズ10の靴底部12は踵部、中間部、爪先部の順で接地する。

【0017】

前記靴底部12の踵部が接地すると足の足圧は踵部アウトソール24、第2シャンクアウトソール28、第1シャンクアウトソール26、前足部アウトソール22の順に連続してスムーズに導かれる。

そして、前記前足部アウトソール22に導かれた足の足圧は前足部アウトソール円弧状部22Aを介して放射方向に導かれるので子供用シューズ10を介して足の足圧を効率よく接地面に伝えることができる。

これにより、足の前足部に作用した足圧を効果的に利用して、子供用シューズ10の蹴り出しを円滑かつ効果的に行うことができる。

【0018】

また、歩行時等に靴底部12の中間部が接地して、接地の衝撃により靴底部12の中間部に外力が作用して前記中間部が撓んだり撓れたりしようとしても、中間部には第1シャンクアウトソール26と第2シャンクアウトソール28が設けられていると共に第1シャンクアウトソール横直線状部26Aが横直線状変曲点溝20をサポートしているので、靴底部12の中間部が必要以上に撓んだり撓れたりするのを確実に防止することができる。

これにより、子供用シューズ10は安定して歩行等を行うことができる。

【0019】

この結果、第1実施例の子供用シューズ10においては足の蹴り出しを円滑、効果的に行うことができると共に安定した歩行等を行うことができる。

【0020】

図5～図7には本考案に係る子供用シューズの第2実施例が示されている。この第2実施例の子供用シューズは前記第1実施例の子供用シューズ10と異なり、主にスポーツをする場合等に履くのに適した子供用シューズである。なお、第1実施例の子供用シューズ10と同一の構成は同一の符号を用いてその説明を省略する。

【0021】

図5及び図6に示されるように、第2実施例の子供用シューズ40の靴底部12を構成するミッドソール42はラバー素材よりも柔らかい素材であるEVA（エチレンビニルアセテート）で一体成形されている。ラバー素材よりも柔らかい素材であるEVAでミッドソール42を形成することにより、スポーツで激しい足の動きをしてもミッドソール42が柔軟性を有することにより激しい動きにミッドソール42が対応し易いようになっている。

【0022】

前記ミッドソール42には子供用シューズ40の幅方向（図5左右方向）に向かって変曲点を有する変曲点溝としての円弧状の円弧状変曲点溝44が形成されている。

この円弧状変曲点溝44はミッドソール42を刻設して形成されている。このため前記ミッドソール42は円弧状変曲点溝44で曲がり易くなっている。

【0023】

この円弧状変曲点溝44よりも靴底部12の前方（図5上方）のミッドソール42にはラバー素材で形成された前足部アウトソール46が設けられている。

この前足部アウトソール46は歩行時に足の前足部に作用する足圧を適正な方向に導く役割を果たすようになっている。

10

20

30

40

50

前記前足部アウトソール４６はe字状に形成されると共に前足部アウトソールリング状部４６Ａと前足部アウトソール横直線状部４６Ｂを有している。

【００２４】

前記ミッドソール４２の踵部にはラバー素材で形成された踵部アウトソール５０が設けられている。この踵部アウトソール５０は踵部アウトソールリング部５０Ａと踵部アウトソール縦線状部５０Ｂを有している。

【００２５】

前記円弧状変曲点溝４４と前記踵部アウトソール５０との間のミッドソール４２の中間部にはラバー素材で形成されたシャンクアウトソール５２が設けられている。

このシャンクアウトソール５２はミッドソール４２の中間部が過度に撓んだり撓れたりするのを防止する役目を果たすようになっている。

10

【００２６】

前記シャンクアウトソール５２はシャンクアウトソール円弧状部５２Ａとシャンクアウトソール曲線状部５２Ｂを有している。シャンクアウトソール５２のシャンクアウトソール円弧状部５２Ａは前記円弧状変曲点溝４４に沿って形成されている。このシャンクアウトソール円弧状部５２Ａは、前記円弧状変曲点溝４４をサポートする役目を有している。

【００２７】

図７に示されるように、前記前足部アウトソール４６、前記踵部アウトソール５０、シャンクアウトソール５２の接地面は前記ミッドソール４２の接地面よりも突出するように形成されている。

20

【００２８】

次に、第２実施例の子供用シューズ４０を履いてスポーツをする場合を例にして子供用シューズ４０の作用を説明する。

子供用シューズ４０を履いてスポーツをすることにより足が激しい動きをしても子供用シューズ４０のミッドソール４２は柔らかい素材のＥＶＡで形成されているので、ミッドソール４２は柔軟性を有して激しい足の動きに対応できる。

【００２９】

子供用シューズ４０を履いてスポーツ等をして靴底部１２の踵部が接地すると足の足圧は踵部アウトソール５０、シャンクアウトソール５２、前足部アウトソール４６の順に連続してスムーズに導かれる。

30

そして、前記前足部アウトソール４６に導かれた足の足圧は前足部アウトソールリング状部４６Ａを介して放射方向に導かれるので子供用シューズ４０を介して足の足圧を効率よく接地面に伝えることができる。

これにより、足の前足部に作用した足圧を効果的に利用して、子供用シューズ４０の蹴り出しを円滑かつ効果的に行うことができる。

【００３０】

また、スポーツ時等に靴底部１２の中間部が接地して、接地の衝撃により靴底部１２の中間部に外力が作用して前記中間部が撓んだり撓れたりしようとしても、中間部にはシャンクアウトソール５２が設けられていると共にシャンクアウトソール円弧状部５２Ａが円弧状変曲点溝４４をサポートしているので、靴底部１２の中間部が必要以上に撓んだり撓れたりするのを確実に防止することができる。

40

これにより、子供用シューズ４０は安定して歩行等を行うことができる。

【００３１】

なお、他の作用、効果は第１実施例の子供用シューズ１０と同一であるのでその説明は省略する。

【００３２】

なお、第１実施例の子供用シューズ１０の前足部アウトソール２２、踵部アウトソール２４、第１シャンクアウトソール２６、第２シャンクアウトソール２８と第２実施例の子供用シューズ４０の前足部アウトソール４６、踵部アウトソール５０、シャンクアウトソール５２はラバー素材で形成したが、主に３歳～４歳が履くサイズの子供用シューズ１０

50

， 40 の前記ラバー素材は低反発ラバー素材が好ましく、主に 5 歳～ 6 歳が履くサイズの子供用シューズ 10， 40 の前記ラバー素材は中反発ラバー素材が好ましく、主に 7 歳～ 11 歳が履くサイズの子供用シューズ 10， 40 の前記ラバー素材は高反発ラバー素材が好ましい。

【産業上の利用可能性】

【0033】

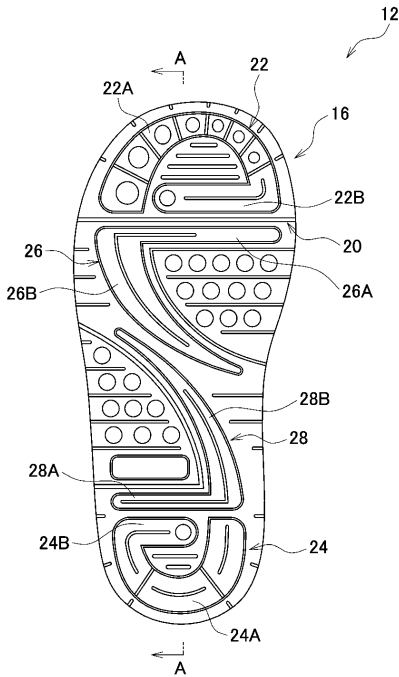
本考案の子供用シューズは登校時やスポーツ時以外にも使用することができる。

【符号の説明】

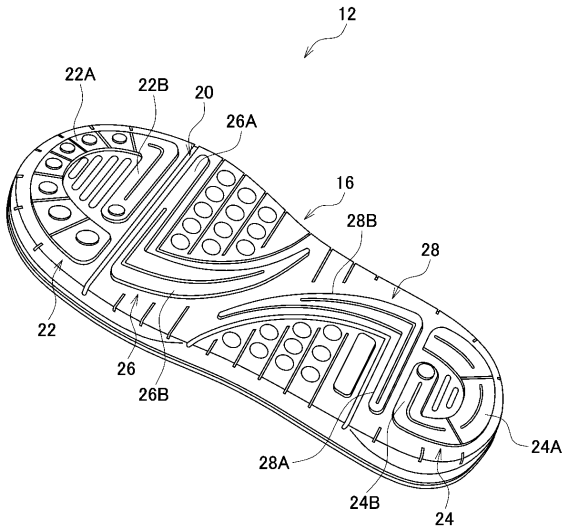
【0034】

10	子供用シューズ	10
12	靴底部	
14	アッパー部	
16	ミッドソール	
20	横直線状変曲点溝	
22	前足部アウトソール	
22A	前足部アウトソール円弧状部	
22B	前足部アウトソール横直線状部	
24	踵部アウトソール	
24A	踵部アウトソール円弧状部	
24B	踵部アウトソール横直線状部	20
26	第 1 シャンクアウトソール	
26A	第 1 シャンクアウトソール横直線状部	
26B	第 1 シャンクアウトソール曲線状部	
28	第 2 シャンクアウトソール	
28A	第 2 シャンクアウトソール横直線状部	
28B	第 2 シャンクアウトソール曲線状部	

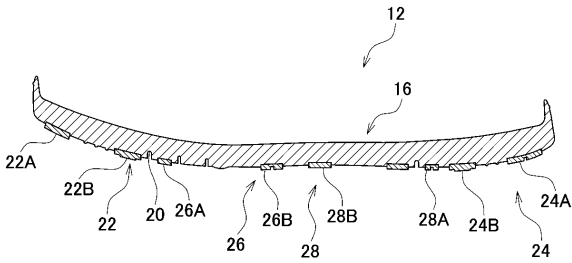
【図 1】



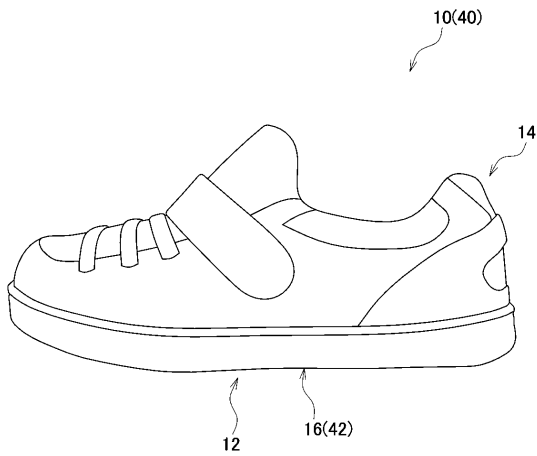
【図 2】



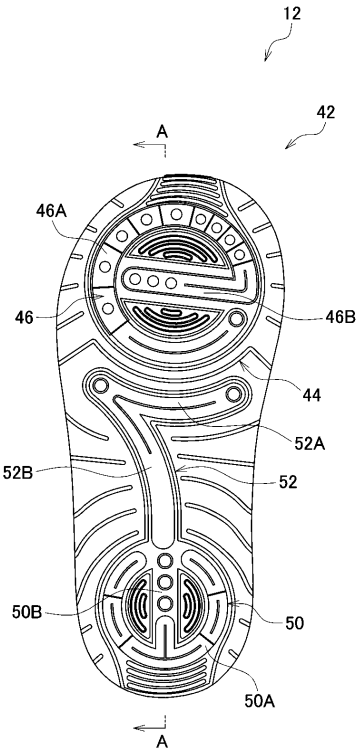
【図 3】



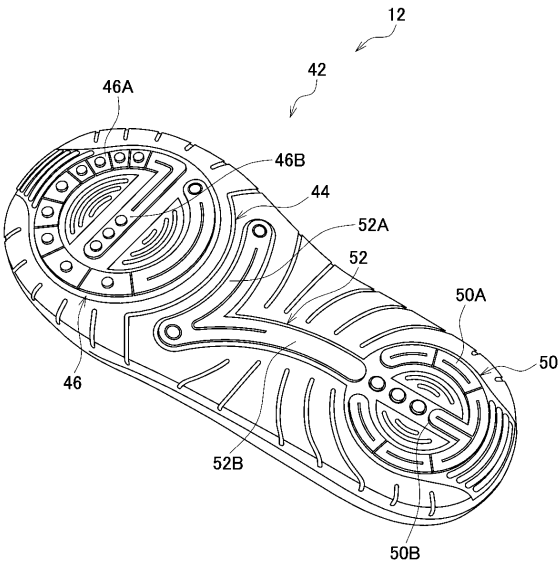
【図 4】



【図 5】



【図 6】



【図 7】

